

人材育成

技術開発

商品開発

市場・販路開拓

観光開発

スポーツ・文化交流

その他

弘前市

◎事業名

弘前さくら棧敷席事業



100年の節目に 新たなお花見スタイルを提案

弘前さくらまつりは、大正7年に「弘前桜会」として始まってから、平成29年で100年目、平成30年に100周年という節目を迎えました。これを機に、さくらまつりをさらに盛り上げようという動きの中、観光コンベンション協会では、新たな花見のスタイルとして「さくら棧敷」観光人力車「中瀬観光光舟」の3つの事業を実施しました。

「さくら」棧敷は、津軽三味線の生演奏を聴きながら、特製のお花見弁当と地酒を楽しむだけでなく、上質な新しいお花見の提案です。公園内のこれまで使っていなかった場所に仮設した96人収容の屋根付きの棧敷で、雨や寒さの心配なく、ゆつくり桜と食事を楽しむことができます。また3回目ですので、お客様の声を反映し、問題点を改善しながら、さくらまつりの名物として定着させていきたいと考えています。

さらには、棧敷の設えも改良、より快適に過ごせるよう工夫されています。「2年目の30年度は、座った目線の高さで桜が見えやすいように、周りを寒がす、寒いときだけビニールを下げるようにしました。令和元年度は、特に寒かったため、入り口もカーテン式にして巻けるようにしました。

また、お食事のメニューも、毎年、より利用しやすいようにプランを変更してきました。当初は、お弁当プランとスイーツプランで始めましたが、2年目は、値段を下げた参加しやすいプランも設定しました。地元の人など何回も来てくださる方もいて、毎回同じ弁当では飽きるという声がありましたので、3年目の今回は、郷土料理、洋食、酒宴向けと3種類の弁当を用意しました。

量は、旅行会社のツアーの時間に合致するので観光客が中心ですが、夜は、自然に地元の方の宴会が多くなります。来年は、これに対応して、地酒の飲み比べをしながら、ちよん料理をつまめるようなプランも加え

そこから外れた日程のツアー客は、キャンセルする人が多くなります。催行人数が集まらないとツアー自体が中止されることもあります。これまでは、棧敷の収容人数96人に対して40人ぐらいのツアーを2件受けるようにしていましたが、キャンセルに備えて、30人ぐらいのツアーを3件受けておくなどの対応もしなければならぬかと考えています。

100年目、100周年と節目が続きました。来年、令和2年度は100回目の弘前さくらまつりとなります。「観光人力車」「中瀬観光光舟」も形を変えて継続します。「さくら棧敷」も、より利用しやすい形で続けていきますので、多くの人に楽しんでいただければと思います。



(左) 主役の桜を引き立てる清酒(しょうしゃ)な設えの棧敷入口
(左下) 棧敷内では、津軽三味線の生演奏も楽しめる
(右下)「お弁当プラン」で提供した特製の郷土料理弁当

07

(弘前市) 弘前さくら棧敷席事業

ていきたいと考えています。

インハウンドの誘致に向け プロモーションを展開

「2年目からは、もちろん、お膳、座布団などの初期投資がかりませんでしたので、その分、PRを充実させています。現在の観光旅行には、個人型の「パーソナル型」と、団体の「エコー型」がありますが、私たちが狙っているのは「エコー型」。団体を獲得したいので、プロモーションは首都圏や関西の旅行社がターゲットの中心になります。31年度は、地元新聞と、新幹線車内誌「トランペール」に広告を掲載したほか、インハウンドの誘致に向けて、JTBのインハウンド向けサイト「ジャパニカン」で棧敷の販売も行いました。また、台湾の旅行サイトにも広告を出しています。

棧敷で食と地酒を楽しむ 新しいお花見スタイルを さくらまつりの新名所に



弘前観光コンベンション協会事務局長 白戸 大吾さん

4年目に向け、課題を洗い出し 名物としての定着を図る

インハウンドも、問い合わせは増えているので、全体の利用者数を増やす中で、外国の方の要望にも対応していけば、自然に増えてくかなと考えています。令和元年度からは、お品書きの英語版を用意しましたが、今後は棧敷の利用の仕方なども英文化して掲示するなどを、さらに外国の方が利用しやすいよう受け入れ態勢を充実させながら、PRにも力を入れていきたいと思っています。

3回の開催で、徐々に定着してきた「弘前さくら棧敷」。利用者数は、2年連続で前年より増加しています。ただ、やはり花の咲き具合で、入り込み数は大きく左右されます。ゴールデンウィークにびつたり合えば利用者も増えますが、桜の開花時期が発表されると

